

# 不漁に打ち勝つ！

# 岩手県水産業リボーン宣言



岩手県は、豊かな海洋環境、良好な漁場に恵まれ、高品質な水産物を生産する全国でも有数の水産県であり、沿岸各地では漁船漁業に加え、秋サケ、ウニ、アワビなどの栽培漁業やワカメ、ホタテガイ、カキなどの養殖業も盛んに行われています。

しかしながら、近年の海洋環境の変化などによって、秋サケ、サンマ、スルメイカ等の主要魚種の極端な不漁が続いています。また、少子・高齢化、人口減少などにより、漁業就業者が減少するなど、本県の漁業を取り巻く環境は、これまでになく、厳しい状況となっています。

一方で、マイワシやブリなどの水揚げが増えているほか、ウニの二期作に向けた取組や、サーモンなど新たな養殖、藻場の保全・創造に向けた取組など、海洋環境などの変化に対応した取組も始まっています。

こうした取組をさらに加速し、不漁に打ち勝ち、岩手県の水産業を再生（リボーン）していくため、行政と漁業者等が連携して、次に掲げる3つの柱を中心に据え、様々な取組、新たな取組にチャレンジし、本県の漁業を進化・発展させていく必要があります。

- 1 主要魚種の資源回復
- 2 増加している資源の有効利用
- 3 新たな漁業・養殖業の導入

県内外の多くの消費者の方々に、新鮮で安全・安心な美味しい岩手の水産物がお届けできるよう、また、活力ある浜で夢と希望を持って働くことができる本県水産業の実現に、官民関係者が一丸となって取り組み、沿岸地域の振興に貢献していきます。

## リボーン！岩手の水産業！

令和4年3月14日

岩手県知事

岩手県漁業協同組合連合会 代表理事会長  
一般社団法人岩手県さけ・ます増殖協会 会長理事

東日本信用漁業協同組合連合会岩手支店  
運営委員長

岩手県漁業共済組合 組合長理事

日本漁船保険組合岩手県支所 運営委員長

全国漁業信用基金協会岩手支所 担当理事

目指す姿（施策の基本方向）

本県の漁業者等の一人ひとりが、海洋環境の変化に適応した水産資源の管理や、漁場の適切かつ有効な活用などに意欲的に取り組むことにより、自らの生産性や所得の向上を図りながらこの不漁を克服し、将来に夢と希望を持って就業している。

【協働団体】沿海漁協、岩手県漁業協同組合連合会、（一社）さけます増殖協会、沿岸漁船漁業組合、水産加工業協同組合連合会、（一社）岩手県栽培漁業協会、（一社）漁港漁村協会、サケ・マス類の海面養殖事業者、内水面漁業協同組合連合会、（公財）岩手県漁業担い手育成基金、担い手育成協議会、沿岸市町村

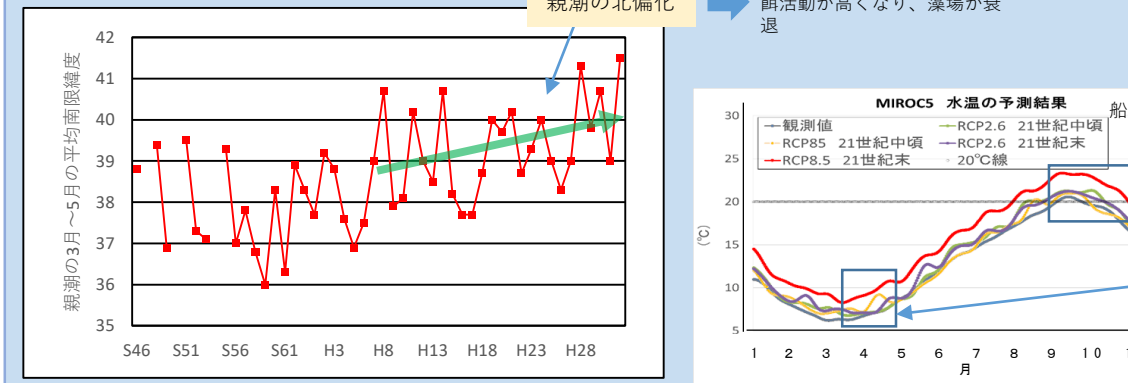
本県漁業を取り巻く現状

重要課題

具体的な取組（三つの柱と安定した基盤）

1 海洋環境の変化

・春季の親潮の沿岸寄り分枝の南下緯度が、北偏化する傾向（気象庁）  
 ・21世紀末の岩手の海面水温は、秋季に20℃を下回る日が現在より10日～1か月以上遅くなる可能性があるとして予測されている（国立環境研究所地域適応コンソーシアム）



海洋環境の変化に適応した水産資源の持続的利用と養殖生産量の維持増大

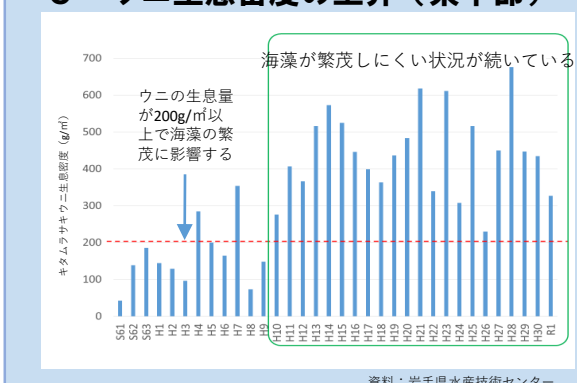
春季の水温上昇  
 秋季の水温降下時期の遅れ  
 養殖ワカメ、コンブの巻き込み時期の遅れ等（養殖期間の短縮）  
 サバ、ブリ類の北上時期の早期化（サケ種苗放流時期の早期化）

2 主要魚種の水揚量の状況

	魚種	水揚量 (トン)					水揚トレンド	備考
		震災前①	R1②	R2③	③/①	③/②		
漁業	サケ	25,053	2,291	1,734	7%	76%	▲	サケの帰帰資源の低迷
	スルメイカ	18,547	2,072	4,271	23%	206%	▲	来遊量の減少
	サンマ	52,241	7,849	7,527	14%	96%	▲	
	マイワシ	241	19,620	23,181	9,619%	118%	▲	
	サバ類	17,881	26,696	21,396	120%	80%	▲	水揚量の増加
	ブリ類	3,237	10,938	8,369	259%	77%	▲	
	アワビ	343	119	97	28%	82%	▲	餌料不足、成長不良
	ウニ	122	88	74	61%	84%	▲	餌料不足、身入り低下
養殖	養殖ワカメ	22,131	10,727	13,116	59%	122%	▲	養殖期間の短縮 新たな害敵生物の出現
	養殖ホタテガイ	6,288	1,642	1,391	22%	85%	▲	成長不良、へい死、天然採苗の不安定化

\* 震災前（H20～H22平均値）、出典：水産振興課調べ、いわて大量ナビ、共販実績値から作成

3 ウニ生息密度の上昇（県中部） 4 藻場面積の推移（岩手県藻場保全・創造方針 単位：ha）



	S53	H3	H8	H17～H23①	H27	R2②	②/①
岩礁性藻場	2,739	2,736	2,466	3,280	2,366	1,446	44.1%

5 漁業就業者の減少、高齢化（漁業センサス）

	H5	H10	H15	H20①	H25	H30②	②/①
漁業就業者数	15,141	12,443	10,472	9,948	6,289	6,327	63.6%
65歳以上構成比	16.0%	23.6%	31.9%	37.3%	35.6%	44.7%	-

【取組1】主要魚種の資源回復

- サケ資源の早期回復及び現状を踏まえたサケ種苗放流体制の見直し**
  - 種卵確保の強化
    - 種卵確保体制の強化（種卵の移出入調整、他道県からの種卵移入）
    - 前中期群を主体とした資源構成（採卵時期の前倒し等）
  - ふ化放流体制の見直し
    - 海洋環境の変化に適応した種苗生産、放流手法の見直し（大型で遊泳力の高い強靱な稚魚の生産）
    - 持続可能なふ化放流体制（種卵確保、集約化、施設の有効利用）
- 磯根資源（アワビ資源）の回復**
  - ソフト・ハード対策の一体的な取組による藻場の再生
    - ソフト対策 漁業者等による過剰ウニ除去等の取組を強化。ドローン等を活用した藻場面積のモニタリングによる現状把握と検証
    - ハード対策 ブロック等の投入による藻場造成
  - 資源解析に基づく適切な放流と漁獲

【取組2】増加している資源の有効利用

- マイワシ、サワラ、ブリ等の有効利用**
  - 魚種の特性を把握し、加工用原料としての活用検討
  - 水産技術センターの技術を活用した、地元での流通加工の促進
- ウニ資源の有効利用**
  - 漁港内の静穏域等を利用した新たなウニの蓄養・出荷モデルの確立
  - 科学的知見に基づいた漁場管理と漁獲

【取組3】新たな漁業・養殖業の導入

- 漁業**
  - マイワシを対象とした小型漁船の試験操業データの蓄積。知事許可漁業の対象魚種の拡大
  - ヤリイカ等の安定的な資源造成に向けた産卵場などの計画的な整備
- 養殖業**
  - 新規漁業就業者の確保・育成
    - いわて水産アカデミーを核とした人材育成
    - 市町村等と連携した新規漁業就業者等の地域への定着支援
  - サケ・マス類の海面養殖の推進
    - 新たな養殖対象種としてアサリ養殖の事業化
    - 新たな技術の導入
      - 養殖漁場の利用状況の見える化による生産性の向上
      - 環境の変化に適応した養殖技術の開発・普及
      - ワカメ半フリー種苗の普及
      - 県産ホタテ種苗の安定確保
      - ICTの活用等（水温観測ブイなど）

【安定した基盤】漁業者の負託に応える経営基盤の立て直し

- 漁協経営の効率化に向けた取組**
  - 事業管理費の縮減に向けたJFグループ岩手の統一電算処理システムの構築等
- 漁協間での事業連携等による事業管理費の縮減、収入増加策の展開**
  - サケふ化放流体制の見直し（再掲）、サケ、マス類の海面養殖の推進等（再掲）

三つの柱

令和4年度当初予算案計上事業

- さけ資源緊急回復支援事業
- さけ、ます増殖緊急強化対策事業（新）
- 水産多面的機能発揮対策事業
- 水産基盤整備調査費
- 水産環境整備事業 他
- 栽培漁業推進事業費

- 水産基盤整備調査費
- いわて水産アカデミー運営支援事業
- 漁業担い手確保・育成総合対策事業
- さけ、ます海面養殖イノベーション推進事業（新）
- 養殖生産技術高度化推進事業
- 養殖業振興事業費